

平成17年10月31日
山口県報号外第56号別冊

山口県人事行政の運営等の状況

< 目 次 >

I 山口県人事行政の運営の状況	1
1 職員の任免及び職員数に関する状況	1
(1) 採用・退職等の状況	1
(2) 職員数の状況	2
2 給与等の状況	4
(1) 総括	4
(2) 職員の平均給与月額、初任給等の状況	5
(3) 一般行政職の級別職員数等の状況	6
(4) 職員の手当の状況	8
(5) 特別職の報酬等の状況	15
(6) 公営企業職員の状況	15
3 勤務時間その他の勤務条件	25
(1) 一般職員の勤務時間	25
(2) 年次有給休暇	25
(3) 特別休暇等	25
(4) 介護休暇	26
(5) 育児休業等	26
4 分限及び懲戒処分の状況	27
(1) 分限処分者数	27
(2) 懲戒処分者数	27
5 服務の状況	28
(1) 職務に専念する義務の免除	28
(2) 営利企業等への従事許可	28
6 職員の研修及び勤務成績の評定の状況	29
(1) 研修の状況	29
(2) 勤務成績の評定の状況	30
7 職員の福祉及び利益の保護の状況	31
(1) 保健の状況	31
(2) 福利厚生等の状況	31
(3) 公務災害補償	32

Ⅱ 山口県人事委員会の業務の状況	33
1 職員の競争試験及び選考の状況	33
(1) 職員の競争試験の状況	33
(2) 選考の状況	34
2 職員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する報告及び勧告の状況	36
3 職員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する措置の要求の状況	36
4 職員に対する不利益な処分についての不服申立ての状況	36

I 山口県人事行政の運営の状況

1 職員の任免及び職員数に関する状況

(1) 採用・退職等の状況（平成16年度）

ア 採用

区 分	試 験					選 考 採 用	計
	上 級	中 級	初 級	保健師 看護師	警察官		
一般行政職等	75人		40人	2人		20人	137人
医療職		7人		18人		14人	39人
教育職						184人	184人
警察職					124人	16人	140人
技能労務職						2人	2人
計	75人	7人	40人	20人	124人	236人	502人

（注）一般行政職等：下記以外の給料表適用者

医療職：医療職給料表適用者

教育職：教育職給料表適用者

警察職：公安職給料表適用者

技能労務職：現業職給料表適用者

（以下、退職、再任用も区分は同様の区分）

イ 退職

区 分	定年退職	勸奨退職	普通退職	その他	計
一般行政職等	143人	51人	38人	10人	242人
医療職	5人	7人	17人	1人	30人
教育職	103人	52人	40人	21人	216人
警察職	50人	35人	52人	3人	140人
技能労務職	14人	2人	1人	1人	18人
計	315人	147人	148人	36人	646人

ウ 再任用

区 分	再 任 用	
		更 新
一般行政職等	1人	
医療職		
教育職	38人	
警察職		
技能労務職	3人	
計	42人	

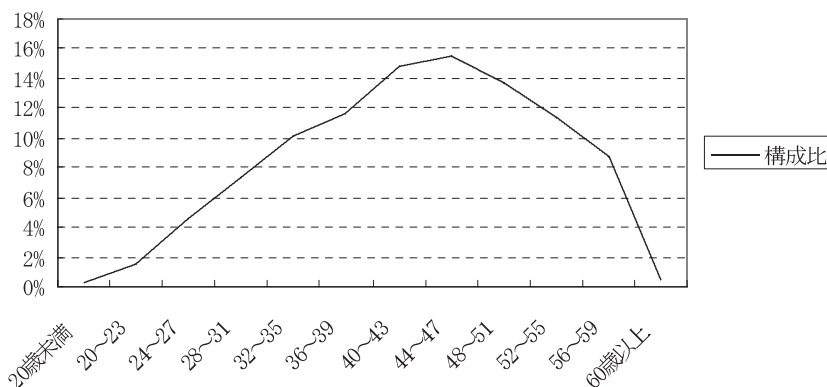
(2) 職員数の状況

ア 部門別職員数の状況及び主な増減理由（各年度4月1日現在）

部 門	平成16年度	平成17年度	増 減	主な増減理由	
一般行政部門	議 会	33人	32人	△1人	運転業務の見直しによる減員
	総務企画	666人	657人	△9人	市町村合併の進ちよくによる減員
	税 務	261人	280人	19人	外形標準課税への対応等のための増員
	民 生	382人	348人	△34人	市町村合併に伴う組織見直しによる減員
	衛 生	630人	632人	2人	廃棄物対策業務のための増員
	労 働	128人	123人	△5人	産業技術学校の訓練科目の見直しによる減員
	農林水産	1,266人	1,240人	△26人	普及事業の見直しによる減員
	商 工	183人	179人	△4人	業務の民間委託による減員
	土 木	1,197人	1,152人	△45人	公共事業の進ちよくによる減員
小 計	4,746人	4,643人	△103人		
特別行政部門	教 育	12,981人	12,970人	△11人	児童数及び生徒数の減少による減員
	警 察	3,515人	3,520人	5人	警察法施行令の改正による増員
	小 計	16,496人	16,490人	△6人	
公営企業等会計部門	病 院	619人	639人	20人	総合周産期母子医療センターの整備による増員
	そ の 他	144人	142人	△2人	欠員不補充による減員
	小 計	763人	781人	18人	
合 計	22,005人 [23,651人]	21,914人 [23,601人]	△91人 [△50人]		

(注) 1 職員数は、一般職に属する職員数であり、休職者、派遣者等を含む。
2 []内は、条例定数の合計である。

イ 年齢別職員構成の状況（平成17年4月1日現在）



区分	20歳未満	21～23歳	24～27歳	28～31歳	32～35歳	36～39歳
職員数	72人	329人	1,007人	1,619人	2,218人	2,536人

区分	40～43歳	44～47歳	48～51歳	52～55歳	56～59歳	60歳以上	計
職員数	3,241人	3,384人	3,016人	2,502人	1,907人	83人	21,914人

ウ 定員適正化計画の数値目標及び進ちょく状況

(ア) 定員適正化目標(数・率)

計 画 期 間		数 値 目 標
始 期	終 期	
平成16年度	平成25年度	△500人(10%減)

(注)一般行政部門を対象

(イ) 定員適正化計画の年次別進ちょく状況(実績)の概要

		平成15年度 (計画前年度)	平成16年度 (1年目)	平成17年度 (2年目)	16~17年 計	数値目標
一 般 行 政 部 門	増 員		103人	21人	124人	
	減 員		△115人	△124人	△239人	
	差 引		△12人	△103人	(23%) △115人	△500人
	職員数	4,758人	4,746人	4,643人		4,258人

(注)()内の数値は、数値目標に対する進ちょく率を示す。

2 給与等の状況

(1) 総括

ア 人件費の状況（普通会計決算）

区分	住民基本台帳人口 (16年度末)	歳出額 A	実質収支	人件費 B	人件費率 B/A	(参考) 15年度の人件費率
	人	千円	千円	千円	%	%
16年度	1,495,494	739,309,846	2,123,643	203,952,008	27.6	27.6

イ 職員給与費の状況（普通会計予算）

区分	職員数 A	給与費				1人当たり 給与費 B/A
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
	人	千円	千円	千円	千円	千円
17年度	22,261	100,520,987	18,723,222	40,603,187	159,847,396	7,181

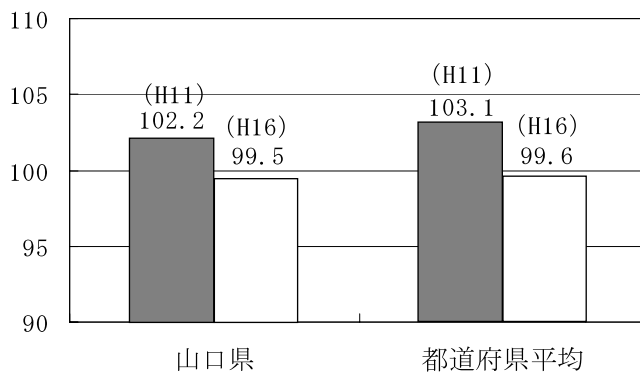
- (注) 1 職員手当には退職手当を含んでいません。
2 給与費は当初予算に計上された額です。

ウ 給与等の減額措置の状況

現在の社会経済情勢等を踏まえ、平成14年4月1日から平成18年3月31日までの間（議長、副議長及び議員については、平成15年4月1日から同年6月30日までの間を除く。）において、知事等特別職の職員等の給与等の一部を減額する措置を実施しています。

対象者	減額の内容	対象者	減額の内容
知事、副知事、出納長、 公営企業管理者、教育長、 県立大学長、常勤の監査委員	給料月額の5%	議長、副議長、 議員	報酬月額の5%
特別管理職員等	管理職手当の月額10%		

エ ラスパイレス指数の状況（平成16年4月1日現在）



- (注) ラスパイレス指数とは、国家公務員の給与水準を100とした場合の地方公務員の給与水準を示す指数です。

(2) 職員の平均給与月額、初任給等の状況

ア 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況（平成17年4月1日現在）

(ア) 一般行政職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
山口県	43.0歳	358,960円	435,985円

(イ) 技能労務職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
山 口 県	45.3歳	340,475円	382,765円
うち校務技士	42.8歳	325,004円	359,782円
うち調理員	45.8歳	334,658円	368,171円
うち道路巡視員	43.7歳	336,237円	384,881円
民間事業者平均	54.7歳	—	325,107円

(注) 「うち」とあるのは、本県の技能労務職のうち、職員数が多い順に3つの職種を記載したものです。

(ウ) 高等学校教育職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
山口県	43.5歳	404,878円	466,800円

(エ) 小・中学校教育職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
山口県	43.5歳	402,864円	454,705円

(オ) 警察職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
山口県	43.0歳	371,142円	492,926円

(注) 1 「平均給料月額」とは、平成17年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均です。
2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、調整手当、住居手当、時間外勤務手当などの諸手当の額を合計したものです。

イ 職員の初任給の状況（平成17年4月1日現在）

区 分		山口県		国	
		初任給	2年後の給料	初任給	2年後の給料
一 般 行 政 職	大学卒	170,700円	184,400円	170,700円	184,400円
	高校卒	138,800円	148,500円	138,800円	148,500円
警 察 職	高校卒	163,300円	177,400円	156,700円	177,400円
高等学校教育職	大学卒	191,100円	205,000円	—	—
小・中学校教育職	大学卒	191,100円	205,000円	—	—
技能労務職	高校卒	138,800円	148,500円	—	—

ウ 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額状況（平成17年4月1日現在）

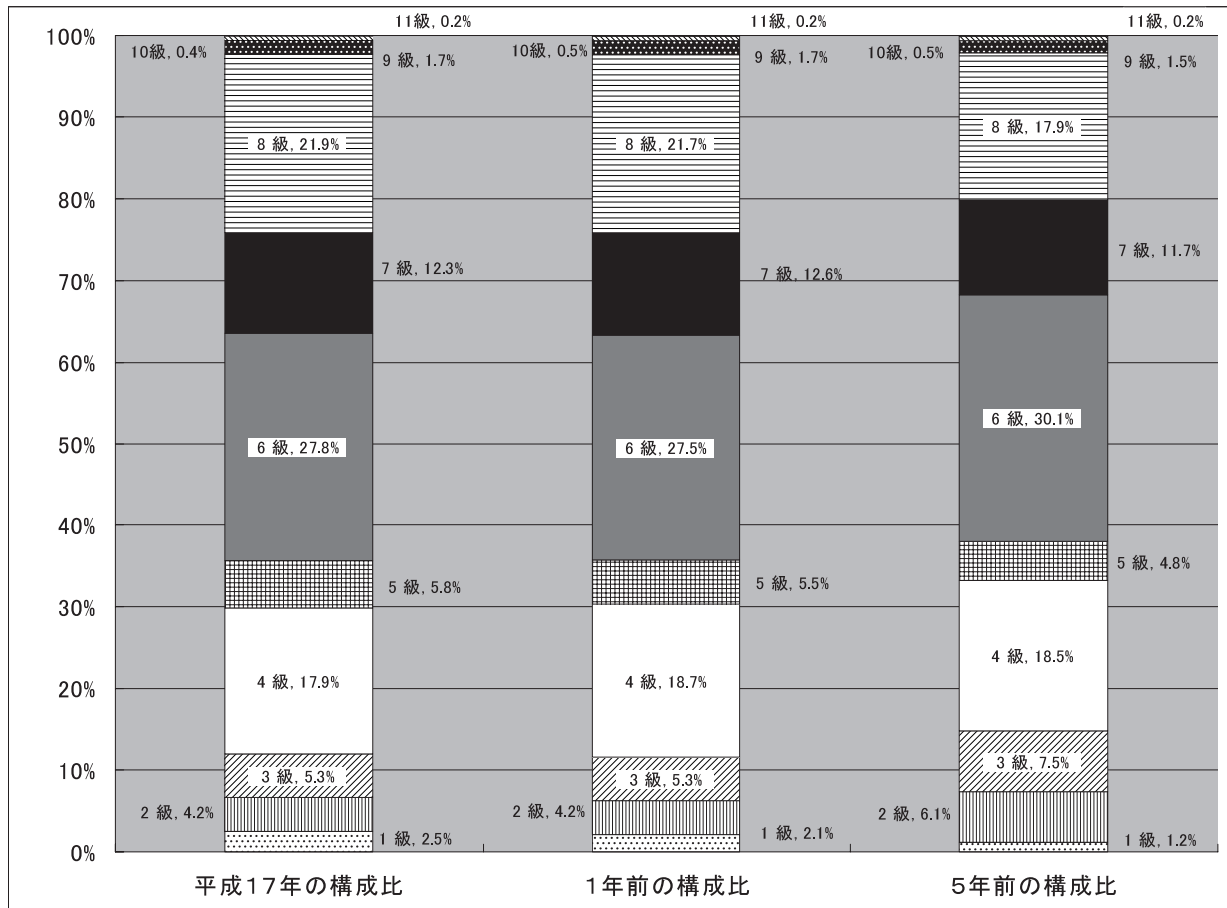
区分		経験年数10年	経験年数15年	経験年数20年
一 般 行 政 職	大学卒	276,465円	338,402円	387,272円
	高校卒	224,827円	275,259円	336,481円
警 察 職	高校卒	263,131円	316,442円	359,570円
高等学校教育職	大学卒	313,279円	376,074円	415,350円
小・中学校教育職	大学卒	318,531円	375,633円	411,637円
技能労務職	高校卒	229,400円	279,757円	317,540円

(3) 一般行政職の級別職員数等の状況

ア 一般行政職の級別職員数の状況（平成17年4月1日現在）

区 分	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	11級	計
標準的な職務内容	係員	係員	係員	主任	相当困難主任	本庁主査	相当困難主査	本庁課長	本庁部次長	本庁部次長	本庁部長	
職員数(人)	125	208	262	893	290	1,391	613	1,095	85	18	10	4,990
構成比(%)	2.5	4.2	5.3	17.9	5.8	27.8	12.3	21.9	1.7	0.4	0.2	100.0

- (注) 1 山口県の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数です。
 2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務です。



イ 昇給期間短縮の状況

区 分		合 計	一般行政職	技能労務職	高等学校 教育 職	小・中学校 教育 職	警察職
16年度	職 員 数 A	人 22,432	人 5,574	人 506	人 3,478	人 7,801	人 3,046
	普通昇給期間（12 ～24月）を短縮し て昇給した職員数 B	人 3,790	人 686	人 90	人 659	人 1,613	人 664
	比 率 B / A	% 16.9	% 12.3	% 17.8	% 18.9	% 20.7	% 21.8
15年度	職 員 数 A	人 22,534	人 5,586	人 523	人 3,540	人 7,864	人 3,023
	普通昇給期間（12 ～24月）を短縮し て昇給した職員数 B	人 4,265	人 986	人 105	人 718	人 1,761	人 607
	比 率 B / A	% 18.9	% 17.7	% 20.1	% 20.3	% 22.4	% 20.1

(注) 記載してある職種は代表的なものです。

(4) 職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

山 口 県	国
1人当たり平均支給額（平成16年度） 1,765千円	—
（16年度支給割合） 期末手当 3.0 月分 勤勉手当 1.4 月分 （1.6）月分 （0.7）月分	（16年度支給割合） 期末手当 3.0 月分 勤勉手当 1.4 月分 （1.6）月分 （0.7）月分
（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 15～25%	（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 10～25%

（注）（ ）内は、再任用職員に係る支給割合です。

イ 退職手当（平成17年4月1日現在）

山 口 県	国
（支給率） 自己都合 勤奨・定年 勤続20年 21 月分 27.3 月分 勤続25年 33.75月分 42.12月分 勤続35年 47.5 月分 59.28月分 最高限度額 59.28月分 59.28月分	（支給率） 自己都合 勤奨・定年 勤続20年 21 月分 27.3 月分 勤続25年 33.75月分 42.12月分 勤続35年 47.5 月分 59.28月分 最高限度額 59.28月分 59.28月分
その他の加算措置 定年前早期退職特例措置(2%～20%加算) 1人当たり平均支給額 4,409千円 26,872千円	その他の加算措置 定年前早期退職特例措置(2%～20%加算)

（注）退職手当の1人当たり平均支給額は、前年度に退職した職員に支給された平均額です。

ウ 調整手当（平成17年4月1日現在）

支給実績（平成16年度決算）			262,919千円
支給対象職員1人当たり平均支給年額（平成16年度決算）			105,632円
支給対象地域（職種）	支給率	支給対象職員数	国の制度（支給率）
東京都特別区	12%	22人	12%
大阪市	10%	6人	10%
福岡市	6%	0人	6%
つくば市	3%	0人	3%
岡山市	3%	3人	3%
広島市	3%	6人	3%
下関市	2%	2,355人	2%
医師	10%	92人	10%

エ 特殊勤務手当（平成17年4月1日現在）

支給実績（平成16年度決算）		877,598千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（平成16年度決算）		101,036円	
職員全体に占める手当支給対象職員の割合（平成17年度）		37.5%	
手当の種類（手当数）		31	
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
税務手当	県税事務所に勤務する職員	県税の賦課、徴収に関する業務	給料月額の 7/100～11/100 (上限 13,000～20,000円)
福祉業務手当	福祉事務所等に勤務する職員	福祉に関する現業業務および監督業務	月額 11,000円 日額 230円
職業訓練指導手当	職業能力開発校に勤務する職員	訓練指導業務	給料月額の5/100、10/100
研究手当	医師、歯科医師	医学に関する試験研究業務	月額 30,000～70,000円
精神保健福祉業務手当	保健所、精神保健福祉センター等に勤務する職員	精神保健福祉法に基づく調査、立ち会い、護送、指導、看護等の業務	日額 300円
感染症防疫等業務手当		狂犬病予防法に基づく野犬等の捕獲等の業務、家畜伝染病発生時の伝染性疾病に感染した動物の取扱等の業務	日額 300円
放射線取扱手当	保健所等に勤務する職員	放射性物質を取扱う業務等	日額 300円
有害薬物取扱等業務手当	環境保健研究センターに勤務する職員等	有害ガスの発生を伴う業務、危険な薬品の取扱業務等	日額 300円
病院等業務手当	(1)(2)総合医療センターに勤務する職員	(1)診療、看護に付随する業務 (2)病菌付着物件の取扱業務等	(1)月額 3,300円 (2)日額 160円
	(3)(4)静和荘に勤務する職員	(3)診療、看護に付随する業務 (4)患者に直接接して行う業務、病菌付着物件の取扱い等	(3)月額 5,500円 (4)日額 260円
	(5)精神保健福祉センター相談指導課に勤務する職員	(5)精神保健および精神障害者の福祉に関する相談、指導等の業務	(5)月額 5,500円
死体取扱手当	病院に勤務する職員	外部からの死体運搬業務、解剖介助業務、死後の処理業務	1体 620円 (運搬業務 300円)

手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
夜間看護等手当	病院に勤務する看護師等	正規の勤務時間による勤務の一部または全部が深夜において行われる看護等の業務	4時間以上1回 3,300円 2時間～4時間 2,900円 2時間未満 2,000円
衛生検査手当	(1)保健所の試験検査課勤務職員 (2)保健所の試験検査課以外の勤務職員 (3)保健所に勤務すると畜検査員、食鳥検査員	(1)病理細菌検査、環境衛生・食品衛生等の試験検査 (2)病理細菌検査、これを補助する業務、環境衛生・食品衛生等の試験検査の業務 (3)と畜検査、食鳥検査	(1)月額 6,900円 (2)日額 300円 (3)専任 月額 19,000円 非専任 日額 900円
漁ろう手当	水産高校所属の船舶に乗船する職員等	漁ろう作業	漁獲物の売上金額に応じた額
潜水手当	水産研究センターに勤務する職員	潜水作業	1時間 310～1,500円
種雄牛馬取扱手当	畜産試験場に勤務する職員	種雄牛馬の自然交配、精液の採取等のための種雄牛馬を御する作業	日額 300円
農業大学校業務手当	農業大学校で実習指導を担当する職員	実習指導業務	給料月額額の4/100～12/100
家畜保健衛生手当	家畜保健衛生所に勤務する獣医師	家畜保健衛生所法第3条第1項に規定する事務	月額 19,000、20,000円
災害応急作業等手当	土木建築部に勤務する職員	異常な自然現象により重大な災害が発生した場合に県の管理する河川の堤防等において行う業務	巡回監視 日額 480円 応急作業 日額 730円
道路上作業手当	道路整備課、土木事務所に勤務する職員	交通を遮断することなく行う道路の維持または修繕の作業	日額 300円
特殊現場作業手当	作業環境が劣悪な作業場がある公署に勤務する職員	作業環境の劣悪な作業場において行う作業	月額 6,800～10,500円
用地交渉手当		土木建築工事等の施行に伴う土地等の取得、使用、損失の補償のための交渉の業務	常例職員 月額 11,500円 その他職員 日額 580円
特殊作業車運転手当	畜産試験場等に勤務する職員	特殊作業車の運転業務	1時間 100～120円

手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
高所等作業手当		高所、深所、トンネル坑内等での調査、保守等の作業	1時間 120円 (トンネル坑内 130円)
警察作業手当	警察本部、警察署に勤務する職員	犯罪の予防・捜査・被疑者の逮捕作業、交通取締作業、爆発物処理等特に危険な作業等	月額 5,000～11,700円 日額 240～4,600円等
教育特殊業務手当	教育職給料表(□)または(△)の1級、2級の者	(1)非常災害時等の緊急の防災等の業務 (2)修学旅行等引率指導業務 (3)対外運動競技等への引率指導業務 (4)部活動指導業務 (5)入学試験監督業務	(1)日額 3,000～3,200円 (2)日額 1,700円 (3)日額 1,700円 (4)日額 1,200円 (5)日額 900円
多学年学級担当手当	公立の小学校又は中学校に勤務する教育職員	2又は3の学年の児童等で編成されている学級を担当し、当該学級で行う授業、指導	3の学年で編成 日額350円 2の学年で編成 日額290円
兼務手当	教育職員	教育に関する他の職を兼ね、当該職に係る授業に従事した時	授業1時間につき1,300円の範囲内
添削指導手当	通信教育を担当する職員以外の教育職員	通信教育の添削指導	学習報告書 1通 160円
教育業務連絡指導手当	小学校、中学校等に勤務する主任等	教務等についての連絡調整、指導助言	日額 200円
学校事務職員等特殊業務手当	(1)定時制の学校等に勤務する職員 (2)養護学校等に勤務する事務職員等	(1)本務として夜間の勤務に従事する場合 (2)児童等に直接接して行う介助、食事相談等の業務	(1)月額 5,000円 (2)日額 230円
教務手当	(1)消防学校に勤務する職員 (2)育成学校等に勤務する職員	(1)教養訓練業務 (2)教育業務	(1)日額 1,000円 (2)義務教育等教員特別手当に準じた額

オ 時間外勤務手当

支給実績(平成16年度決算)	3,497,500千円
職員1人当たり平均支給年額(平成16年度決算)	160千円
支給実績(平成15年度決算)	3,524,049千円
職員1人当たり平均支給年額(平成15年度決算)	160千円

カ その他の手当（平成17年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (平成16年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額 (平成16年度決算)
扶養手当	(1)配偶者 13,500円 (2)配偶者以外の扶養親族のうち2人まで 6,000円 (3)職員に扶養親族でない配偶者がある場合扶養親族のうち1人 6,500円 (4)職員に配偶者がいない場合扶養親族のうち1人 11,000円 (5)その他の扶養親族 5,000円	同じ		千円 2,873,261	円 239,658
通勤手当	<交通機関利用> (1)1箇月当たりの運賃の額が55,000円以下 →定期券又は回数券の価額（最も経済的かつ合理的なもの） (2)1箇月当たりの運賃の額が55,000円超 →55,000円を超える額の2分の1に55,000円を加算した額 <自動車等使用（自転車を除く。）> 通勤距離が2km以上4km未満の場合2,000円、以下距離に応じて支給され、最高支給限度額は、通勤距離が78km以上の場合50,000円	異なる	<交通機関利用者> 運賃負担額に応じ支給。最高支給限度額 月額 55,000円 <自動車等使用者> 使用距離に応じ支給。最高支給限度額 月額 24,500円	千円 3,208,505	円 170,638
住居手当	<職員が自ら居住する借家・借間> (1)家賃等の月額が23,000円以下 →家賃等の月額から12,000円を控除した額 (2)家賃等の月額が23,000円超 →家賃等の月額と23,000円との差額の1/2を11,000円に加算した額（最高支給限度額は27,000円） <自宅> 2,000円（新築又は購入の日から5年を経過するまでの間は3,000円） <配偶者等が居住する借家・借間> 職員が自ら居住する場合の借家・借間にかかる手当額の1/2に相当する額	異なる	自宅の手当 で新築又は購入の日から5年経過まで 2,500円	千円 1,320,534	円 112,319
管理職手当	管理、監督の地位にある職員に対して支給 【支給内容】 本庁部課長、出先機関の長等に給料の8～25%を支給	同じ		千円 1,424,020	円 718,476

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (平成16年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額 (平成16年度決算)
単身赴任手当	赴任によりやむを得ず単身生活することとなった職員で、赴任前の住居から公署までの距離が一定以上の者に対して支給 【支給内容】 基礎額23,000円とし、職員の住居から家族の住居までの距離が一定以上の者について、その距離に応じて最高45,000円を加算	同じ		千円 262,622	円 290,833
休日勤務手当	祝日法による休日等または年末年始の休日等において、正規の勤務時間として勤務した職員に対して支給 【支給内容】 勤務1時間につき給料の時間単価の35%増の額を支給	同じ		千円 688,099	円 435,230
宿日直手当	宿日直勤務をした職員に対して支給 【支給内容】 勤務1回につき、勤務の内容、時間に応じ4,200～20,000円を支給	同じ		千円 636,992	円 290,599
管理職員特別勤務手当	管理職手当の支給を受ける職員等が、臨時又は緊急の必要により週休日等に勤務した場合に支給 【支給内容】 勤務1回につき4,000～12,000円を支給(6時間を超える勤務にあつては、150/100を乗じた額)	同じ		千円 30,450	円 621,429

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (平成16年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額 (平成16年度決算)
初任給調整手当	医師又は歯科医師たる職員で採用困難なものに対して支給 【支給内容】 採用後35年以内の期間、採用から1年を経過する毎にその額を逡減して支給(最高支給額307,900円)	同じ		千円 2,832,001 (初任給調整手当、特 地勤務手当、夜 間勤務手当、農 林漁業普及指 導手当、へき 地手当、義務 教育等教員特 別手当、産業 教育手当、定 時制通信教育 手当の合計)	
特地勤務手当	離島等生活の著しく不便な地域に勤務する職員に対して支給 【支給内容】 級地に応じ給料の4~16%を支給	同じ			
夜間勤務手当	正規の勤務時間として、深夜に勤務した職員に対して支給 【支給内容】 勤務1時間につき給料の時間単価の25%を支給	同じ			
農林漁業普及指導手当	農業、林業、水産業を行い又はそれらに従事する者に接して生活の改善に関する技術及び知識を普及指導することを職務とする職員に対して支給 【支給内容】 給料の6%を支給				
へき地手当	山間地、離島等生活不便地に所在する小中学校等に勤務する学校職員に対して支給 【支給内容】 級地に応じ給料の4~16%を支給				
義務教育等教員特別手当	小中学校、高等学校、特殊教育諸学校に勤務する教育職員に級号給に応じて5,000~20,200円を支給				
産業教育手当	実習を伴う農業等に関する科目を主として担任する教育職員に給料の10%を支給				
定時制通信教育手当	定時制・通信教育に従事する教育職員に給料の10%(管理職手当受給者は8%)を支給				

(5) 特別職の報酬等の状況（平成17年4月1日現在）

区 分		給 料 月 額 等
給料	知 事	1,244,500円 (1,310,000円)
	副知事	988,000円 (1,040,000円)
	出納長	845,500円 (890,000円)
報酬	議 長	931,000円 (980,000円)
	副議長	836,000円 (880,000円)
	議 員	798,000円 (840,000円)
期末 手当	知 事 副知事 出納長	(平成16年度支給割合) 3.3月分
	議 長 副議長 議 員	(平成16年度支給割合) 3.3月分
退職 手当	知 事	(算定方式) (支給時期)
	副知事	給料月額 × 在職月数 × 0.50 任期毎
	出納長	給料月額 × 在職月数 × 0.40 任期毎
		給料月額 × 在職月数 × 0.30 任期毎

(注)()内は、平成14年度から実施している給与等の減額措置を行う前の額です。

(6) 公営企業職員の状況

ア 工業用水道事業

(ア) 職員給与費の状況

a 決算

区 分	総 費 用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与比率 B / A	(参考)平成15年 度の総費用に占め る職員給与比率
	千円	千円	千円	%	%
16年度	6,291,038	3,320,617	756,090	12.0	12.3

b 予算

区 分	職員数 A	給 与 費				1人当たり給 与費 B / A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
	人	千円	千円	千円	千円	千円
17年度	85	367,634	109,957	151,445	629,036	7,400

(注) 1 職員手当には退職手当を含んでいません。

2 給与費は当初予算に計上された額です。

(イ) 職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況（平成17年4月1日現在）

区分	平均年齢	基本給	平均月収額
山口県	42.4歳	364,810円	597,951円

(注) 1 基本給とは、職員の給料、扶養手当及び調整手当の合算額の平均です。

2 平均月収額とは、職員の基本給と毎月支払われる住居手当、時間外勤務手当などの諸手当と期末勤勉手当を合計したものの平均です。

(ウ) 職員の手当の状況

a 期末手当・勤勉手当

山口県（工業用水道事業）	山口県
1人当たり平均支給額（平成16年度） 1,692千円	1人当たり平均支給額（平成16年度） 1,765千円
（16年度支給割合） 期末手当 3.0 月分 勤勉手当 1.4 月分 （1.6）月分（0.7）月分	（16年度支給割合） 期末手当 3.0 月分 勤勉手当 1.4 月分 （1.6）月分（0.7）月分
（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 15～25%	（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 15～25%

(注) () 内は、再任用職員に係る支給割合です。

b 退職手当（平成17年4月1日現在）

山口県（工業用水道事業）	山口県
（支給率） 自己都合 勤続20年 21 月分 勤続25年 33.75月分 勤続35年 47.5 月分 最高限度額 59.28月分	（支給率） 自己都合 勤続20年 21 月分 勤続25年 33.75月分 勤続35年 47.5 月分 最高限度額 59.28月分
勸奨・定年 27.3 月分 42.12月分 59.28月分 59.28月分	勸奨・定年 27.3 月分 42.12月分 59.28月分 59.28月分
その他の加算措置 定年前早期退職特例措置(2 % ~20% 加算)	その他の加算措置 定年前早期退職特例措置(2 % ~20% 加算)
1人当たり平均支給額 27,097千円	1人当たり平均支給額 4,409千円 26,872千円

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、前年度に退職した職員に支給された平均額です。

c 調整手当（平成17年4月1日現在）

支給対象職員はいません。

d 特殊勤務手当（平成17年4月1日現在）

支給実績（平成16年度決算）		7,286千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（平成16年度決算）		148,691円	
職員全体に占める手当支給対象職員の割合（平成17年度）		57.6%	
手当の種類（手当数）		3	
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
利水業務手当	事業所に勤務する職員	利水業務	月額 12,400～13,100円 日額 590円
危険業務手当		特別高圧、高圧の活線作業、活線近接作業、高所作業又深所作業等の業務	1時間 120～130円
用地交渉手当		土木建築工事等の施行に伴う土地等の取得、使用、損失の補償のための交渉業務	常例職員 月額 11,500円 その他職員 日額 580円

e 時間外勤務手当

支給実績（平成16年度決算）	22,427千円
職員1人当たり平均支給年額（平成16年度決算）	262千円
支給実績（平成15年度決算）	19,017千円
職員1人当たり平均支給年額（平成15年度決算）	219千円

（注） 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含んでいます。

f その他の手当（平成17年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 （平成16年度決算）	支給職員1人 当たり平均支給 年額 （平成16年度決算）
扶養手当	(1)配偶者 13,500円 (2)配偶者以外の扶養親族のうち2人まで 6,000円 (3)職員に扶養親族でない配偶者がある場合扶養親族のうち1人 6,500円 (4)職員に配偶者がいない場合扶養親族のうち1人 11,000円 (5)その他の扶養親族 5,000円	同じ		千円 14,732	円 237,605

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (平成16年度決算)	支給職員1人 当たり平均支給 年額 (平成16年度決算)
通勤手当	<p><交通機関利用></p> <p>(1)1箇月当たりの運賃の額が55,000円以下 →定期券又は回数券の価額(最も経済的かつ合理的なもの)</p> <p>(2)1箇月当たりの運賃の額が55,000円超 →55,000円を超える額の2分の1に55,000円を加算した額</p> <p><自動車等使用(自転車を除く。)></p> <p>通勤距離が2km以上4km未満の場合2,000円、以下距離に応じて支給され、最高支給限度額は、通勤距離が78km以上の場合50,000円</p>	同じ		千円 24,470	円 335,205
住居手当	<p><職員が自ら居住する借家・借間></p> <p>(1)家賃等の月額が23,000円以下 →家賃等の月額から12,000円を控除した額</p> <p>(2)家賃等の月額が23,000円超 →家賃等の月額と23,000円との差額の1/2を11,000円に加算した額(最高支給限度額は27,000円)</p> <p><自宅></p> <p>2,000円(新築又は購入の日から5年を経過するまでの間は3,000円)</p> <p><配偶者等が居住する借家・借間></p> <p>職員が自ら居住する場合の借家・借間にかかる手当額の1/2に相当する額</p>	同じ		千円 5,107	円 88,052
管理職手当	<p>管理、監督の地位にある職員に対して支給</p> <p>【支給内容】</p> <p>本庁部課長、出先機関の長等に給料の8~25%を支給</p>	同じ		千円 7,512	円 834,640
初任給調整手当	<p>医師又は歯科医師たる職員で採用困難なものに対して支給</p> <p>【支給内容】</p> <p>採用後35年以内の期間、採用から1年を経過する毎にその額を逡減して支給(最高支給額307,900円))</p>	同じ			

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (平成16年度決算)	支給職員1人 当たり平均支給 年額 (平成16年度決算)
単身赴任 手当	赴任によりやむを得ず単身で生活すること となった職員で、赴任前の住居から公署ま での距離が一定以上の者に対して支給 【支給内容】 基礎額23,000円とし、職員の住居から家 族の住居までの距離が一定以上の者につ いて、その距離に応じて最高45,000円を 加算	同じ		千円 276	円 276,000
特地勤務 手当	離島等生活の著しく不便な地域に勤務す る職員に対して支給 【支給内容】 級地に応じ給料の4～16%を支給	同じ			
休日勤務 手当	祝日法による休日等または年未年始の休 日等において、正規の勤務時間として勤 務した職員に対して支給 【支給内容】 勤務1時間につき給料の時間単価の35% 増の額を支給	同じ			
夜間勤務 手当	正規の勤務時間として、深夜に勤務した 職員に対して支給 【支給内容】 勤務1時間につき給料の時間単価の25% を支給	同じ			
宿日直手 当	宿日直勤務をした職員に対して支給 【支給内容】 勤務1回につき、勤務の内容、時間に 応じ4,200～20,000円を支給	同じ		千円 21,042	円 501,000
管理職員 特別勤務 手当	管理職手当の支給を受ける職員等が、臨 時又は緊急の必要により週休日等に勤務 した場合に支給 【支給内容】 勤務1回につき4,000～12,000円を支給 (6時間を超える勤務にあっては、150/100 を乗じた額)	同じ		千円 8	円 8,000

イ 電気事業

(ア) 職員給与費の状況

a 決算

区 分	総 費 用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与比率 B / A	(参考)平成15年 度の総費用に占め る職員給与比率
16年度	千円 1,496,259	千円 256,967	千円 484,219	% 32.4	% 31.8

b 予算

区 分	職員数 A	給 与 費				1人当たり給 与費 B / A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
17年度	人 50	千円 215,256	千円 69,493	千円 89,756	千円 374,505	千円 7,490

- (注) 1 職員手当には退職手当を含んでいません。
2 給与費は当初予算に計上された額です。

(イ) 職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況(平成17年4月1日現在)

区 分	平均年齢	基本給	平均月収額
山口県	42.5歳	370,116円	603,385円

- (注) 1 基本給とは、職員の給料、扶養手当及び調整手当の合算額の平均です。
2 平均月収額とは、職員の基本給と毎月支払われる住居手当、時間外勤務手当などの諸手当と期末勤勉手当を合計したものの平均です。

(ウ) 職員の手当の状況

a 期末手当・勤勉手当

山口県(電気事業)	山口県
1人当たり平均支給額(平成16年度) 1,656千円	1人当たり平均支給額(平成16年度) 1,765千円
(16年度支給割合) 期末手当 3.0 月分 勤勉手当 1.4 月分 (1.6) 月分 (0.7) 月分	(16年度支給割合) 期末手当 3.0 月分 勤勉手当 1.4 月分 (1.6) 月分 (0.7) 月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5~20% ・管理職加算 15~25%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5~20% ・管理職加算 15~25%

- (注)()内は、再任用職員に係る支給割合です。

b 退職手当（平成17年4月1日現在）

山口県（電気事業）			山口県		
（支給率）	自己都合	勸奨・定年	（支給率）	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	21 月分	27.3 月分	勤続20年	21 月分	27.3 月分
勤続25年	33.75月分	42.12月分	勤続25年	33.75月分	42.12月分
勤続35年	47.5 月分	59.28月分	勤続35年	47.5 月分	59.28月分
最高限度額	59.28月分	59.28月分	最高限度額	59.28月分	59.28月分
その他の加算措置			その他の加算措置		
定年前早期退職特例措置(2 % ~20% 加算)			定年前早期退職特例措置(2 % ~20% 加算)		
1人当たり平均支給額			1人当たり平均支給額		
27,168千円			4,409千円 26,872千円		

（注） 退職手当の1人当たり平均支給額は、前年度に退職した職員に支給された平均額です。

c 調整手当（平成17年4月1日現在）

支給対象職員はいません。

d 特殊勤務手当（平成17年4月1日現在）

支給実績（平成16年度決算）		4,040千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（平成16年度決算）		155,391円	
職員全体に占める手当支給対象職員の割合（平成17年度）		52.0%	
手当の種類（手当数）		3	
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
利水業務手当	事業所に勤務する職員	利水業務	月額 12,400～13,100円 日額 590円
危険業務手当		特別高圧、高圧の活線作業、活線近接作業、高所作業又深所作業等の業務	1時間 120～130円
用地交渉手当		土木建築工事等の施行に伴う土地等の取得、使用、損失の補償のための交渉業務	常例職員 月額 11,500円 その他職員 日額 580円

e 時間外勤務手当

支給実績（平成16年度決算）	11,405千円
職員1人当たり平均支給年額（平成16年度決算）	228千円
支給実績（平成15年度決算）	11,031千円
職員1人当たり平均支給年額（平成15年度決算）	221千円

（注） 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

f その他の手当（平成17年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (平成16年度決算)	支給職員1人 当たり平均支給年額 (平成16年度決算)
扶養手当	(1)配偶者 13,500円 (2)配偶者以外の扶養親族のうち2人まで 6,000円 (3)職員に扶養親族でない配偶者がある場合扶養親族のうち1人 6,500円 (4)職員に配偶者がいない場合扶養親族のうち1人 11,000円 (5)その他の扶養親族 5,000円	同じ		千円 9,817	円 272,694
通勤手当	<交通機関利用> (1)1箇月当たりの運賃の額が55,000円以下 →定期券又は回数券の価額（最も経済的かつ合理的なもの） (2)1箇月当たりの運賃の額が55,000円超 →55,000円を超える額の2分の1に55,000円を加算した額 <自動車等使用（自転車を除く。）> 通勤距離が2km以上4km未満の場合2,000円、 以下距離に応じて支給され、最高支給限度額は、通勤距離が78km以上の場合50,000円	同じ		千円 13,481	円 306,377
住居手当	<職員が自ら居住する借家・借間> (1)家賃等の月額が23,000円以下 →家賃等の月額から12,000円を控除した額 (2)家賃等の月額が23,000円超 →家賃等の月額と23,000円との差額の1/2を11,000円に加算した額（最高支給限度額は27,000円） <自宅> 2,000円（新築又は購入の日から5年を経過するまでの間は3,000円） <配偶者等が居住する借家・借間> 職員が自ら居住する場合の借家・借間にかかる手当額の1/2に相当する額	同じ		千円 2,949	円 86,724
管理職手当	管理、監督の地位にある職員に対して支給 【支給内容】 本庁部課長、出先機関の長等に給料の8～25%を支給	同じ		千円 7,453	円 828,084

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (平成16年度決算)	支給職員1人 当たり平均支給年額 (平成16年度決算)
初任給調整手当	医師又は歯科医師たる職員で採用困難なものに対して支給 【支給内容】 採用後35年以内の期間、採用から1年を経過する毎にその額を逡減して支給（最高支給額307,900円）	同じ			
単身赴任手当	赴任によりやむを得ず単身で生活することとなった職員で、赴任前の住居から公署までの距離が一定以上の者に対して支給 【支給内容】 基礎額23,000円とし、職員の住居から家族の住居までの距離が一定以上の者について、その距離に応じて最高45,000円を加算	同じ			
特地勤務手当	離島等生活の著しく不便な地域に勤務する職員に対して支給 【支給内容】 級地に応じ給料の4～16%を支給	同じ			
休日勤務手当	祝日法による休日等または年末年始の休日等において、正規の勤務時間として勤務した職員に対して支給 【支給内容】 勤務1時間につき給料の時間単価の35%増の額を支給	同じ			
夜間勤務手当	正規の勤務時間として、深夜に勤務した職員に対して支給 【支給内容】 勤務1時間につき給料の時間単価の25%を支給	同じ			
宿日直手当	宿日直勤務をした職員に対して支給 【支給内容】 勤務1回につき、勤務の内容、時間に応じ4,200～20,000円を支給	同じ		千円 14,562	円 560,077

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (平成16年度決算)	支給職員1人 当たり平均支給年額 (平成16年度決算)
管理職員 特別勤務 手当	管理職手当の支給を受ける職員等が、臨時又は緊急の必要により週休日等に勤務した場合に支給 【支給内容】 勤務1回につき4,000～12,000円を支給 (6時間を超える勤務にあつては、150/100を乗じた額)	同じ		千円 6	円 6,000

3 勤務時間その他の勤務条件

(1) 一般職員の勤務時間

平成17年4月1日現在における一般職員の勤務時間及び休憩、休息時間は次のとおりです。

一週間の勤務時間	開始時刻	終了時刻	休憩時間	休息時間
40時間	8:30	17:15	12:15～13:00	12:00～12:15 17:00～17:15

(注) 公務の運営上の事情等により特別の形態によって勤務する必要のある職員の勤務時間については、各任命権者が別に定めています。

(2) 年次有給休暇

年次有給休暇は、一年ごとに20日付与され、残日数は翌年に繰り越すことができます。

平成16年 平均使用日数	9.8日
--------------	------

(注) 小中学校教職員を除く。

(3) 特別休暇等

負傷や病気による療養、選挙権の行使、結婚、出産など条例や規則で定める事由に該当する場合には、特別休暇等を付与しています。

	区 分	付 与 日 数
特別休暇	選挙権その他公民としての権利行使	必要と認められる期間
	証人等としての裁判所等への出頭	
	骨髄移植のための骨髄液提供	
	ボランティア活動	年5日以内
	職員の結婚	7日以内
	職員の分べん	産前8週から産後8週
	育児(生後1年6月に達しない子)	1日2回、各45分以内
	職員の妻の出産	3日以内
	男性職員の育児参加	5日以内
	子(小学校就学前)の看護	年5日以内
	忌引	10日以内
	父母、配偶者、子の祭日	1日
	災害による住居の滅失又は損壊	7日以内
	災害による交通遮断等	必要と認められる期間
	生理日	月3日以内
	妊産婦の健康診断	必要と認められる期間
	妊婦の通勤緩和	1日1時間以内
妊娠障害	14日以内	
病気休暇	療養のため勤務しないことがやむを得ないと認められる必要最低限の期間	

(4) 介護休暇

職員が配偶者、父母、子、配偶者の父母等の負傷又は老齢により介護をするため勤務しないことが相当であると認められる場合は、6月の範囲内で取得することが可能です。

平成16年の介護休暇の取得状況は次のとおりです。

区 分	取 得 者 数
男性職員	2人
女性職員	22人
計	24人

(5) 育児休業等

職員が3歳に満たない子を養育するため、当該子が3歳に達する日まで、育児のために休業等を行うことが認められる制度です。

平成16年度の育児休業及び部分休業の取得状況は次のとおりです。

	育児休業取得者数	部分休業取得者数
男性職員	5人	
女性職員	264人	3人
	286人	3人
計	269人	3人
	286人	3人

(注) 上段は平成16年度に新たに育児休業(部分休業)を取得した者、下段は育児休業(部分休業)の期間が平成15年度から16年度にかけて引き続いている者の数です。

4 分限及び懲戒処分の状況

(1) 分限処分者数

分限処分とは、勤務実績が良くない場合、心身の故障の場合、又はその職に必要な適格性を欠く場合等の一定の事由がある場合、地方公務員法第28条の規定に基づき、休職等の処分をすることです。

平成16年度の分限処分の状況は、次のとおりです。

処分事由	処分の種類				
	降任	免職	休職	降給	合計
勤務実績が良くない場合					
心身の故障の場合			232人		232人
職に必要な適格性を欠く場合					
職制、定数の改廃、予算の減少により廃職、過員を生じた場合					
刑事事件に関し起訴された場合					
条例で定める事由による場合					
合計			232人		232人

(2) 懲戒処分者数

懲戒処分とは、法令に違反した場合、職務上の義務に違反し若しくは職務を怠った場合、又は全体の奉仕者たるにふさわしくない非行のあった場合、地方公務員法第29条の規定に基づき、戒告、減給、停職又は免職の処分をすることです。

平成16年度の懲戒処分の状況は、次のとおりです。

処分事由	処分の種類				
	戒告	減給	停職	免職	合計
法令に違反した場合	2人	1人	1人		4人
職務上の義務に違反し又は職務を怠った場合	2人				2人
全体の奉仕者たるにふさわしくない非行のあった場合	2人	8人	1人	4人	15人
合計	6人	9人	2人	4人	21人

5 サービスの状況

(1) 職務に専念する義務の免除

職員は、地方公務員法第35条に基づき、職務に専念する義務を有していますが、条例及び規則により、次の場合においては、当該義務が免除されます。

職務に専念する義務の免除が認められる場合
ア 研修を受ける場合
イ 厚生に関する計画の実施に参加する場合
ウ その他特に任命権者又はその委任を受けた者の承認を得た場合
エ 人事委員会が定める場合
(ア) 在勤庁の事務又は事業運営上の必要に基づき、事務又は事業の全部又は一部を停止した場合
(イ) 地方公務員災害補償法第51条第2項の規定により審査請求若しくは再審査請求をし、又は同法第60条第1項の規定により出頭する場合
(ウ) 地方公務員法第46条の規定により勤務条件に関する措置の要求をし、又は同法第49条の2第1項の規定により不利益処分に関する不服申立てをする場合
(エ) 地方公務員法第55条第11項の規定により、当局に対して不満を表明し、又は意見を申し出る場合
(オ) 教育公務員特例法第17条第1項の規定により、教育に関する他の職を兼ね、又は教育に関する他の事業若しくは事務を行う場合
(カ) 職務に関し、国又は他の地方公共団体若しくはその他の公益団体の職を兼ね、その職に属する事務を行う場合
(キ) 国又は地方公共団体の機関、学校その他の団体から委嘱を受けて、講演講義等をする場合
(ク) 職務上の教養に資する講演会又は講習会に出席する場合
(ケ) 新採用及び転勤のために旅行する場合
(コ) 職務上必要な試験を受験する場合
(サ) 人事委員会が特に認めた場合

(2) 営利企業等への従事許可

職員は、地方公務員法第38条に基づき営利企業等への従事が制限されていますが、人事委員会規則に定める許可基準を満たし、かつ任命権者の許可を受けた場合には、営利企業等に従事することができます。

許 可 の 基 準
次のいずれにも該当する場合
ア 職務の遂行に支障を及ぼすおそれがないもの
イ 当該職員の職との間に特別の利害関係がなく、又はその発生のおそれがないもの
ウ 公務員としての信用を傷つけるおそれがないもの
エ その他法の精神に反しないと認められるもの

6 職員の研修及び勤務成績の評定の状況

(1) 研修の状況

職員の勤務能率の発揮及び増進を図るため、積極的に各種研修に取り組んでいます。

ア 一般行政職員

地方自治体を取り巻く社会経済情勢が大きく変化する中で、「元気で存在感のある県づくり」を積極的に進めていくために、職員一人ひとりの意識改革と職員の自主的・主体的な能力開発を推進する必要があることから、「山口県人材育成基本方針」を踏まえ、積極的に職員の研修を行っています。

平成16年度には、次のとおり研修を実施しました。

対象者	研修名	回数	人数
一般行政職員	クラス研修 新規採用職員、主事級、主任主事級、主任級、主査級、課長級、管理者特別	22回	1,522人
	マイセルフ研修 政策形成、危機管理実務、情報公開、異業種交流、地方公務員、民法、経済等	34回	1,500人
	サポート研修 通信教育、放送大学	3回	16人
	職場研修 県民サービス向上、接遇指導者養成、地域接遇、公務員倫理指導者養成等	21回	620人
	派遣研修 中央省庁、他の地方公共団体、自治大・大学、民間企業等		21人
	合 計		3,679人

(注) その他、部局の業務の遂行に必要な知識技能を修得させるための部局研修を実施しました。

イ 教職員

児童生徒一人ひとりの個性や特性を最大限に伸長するとともに、豊かな人間性や社会性を育てるためには、学校教育の直接の担い手である教職員の資質能力を高め、学校全体の教育力の向上を図ることが重要であることから、多様な教育課程を踏まえ、研修内容や研修形態の充実・改善を図りながら、教職員のライフステージに応じた計画的、体系的な研修を実施しています。

平成16年度には、次のとおり研修を実施しました。

対象者	研修名	日数等	人数
教職員	基本研修 初任者・新採・新任、経験者、管理職、特別支援教育	142日	7,270人
	希望研修 経験者、管理職、教科、教育相談、情報教育、特別支援教育、専門職務等	89日	3,409人
	支援研修 サテライト、スキルアップ	226回	6,129人
	派遣研修 大学院、日本人学校、民間企業等		84人
	合 計		16,892人

(注) 派遣研修は実人数、その他は延べ実数。

ウ 警察職員

警察職員が、警察法の精神にのっとり、民主警察の本質と警察の責務とを自覚し、人格を磨き、学術を修め、実力を養い、もって公正明朗かつ能率的に職務を遂行し得るよう研修を実施しています。

平成16年度には、次のとおり研修を実施しました。

対象者	研修名	期数	人数
警察職員	採用時教養 初任科、初任総合科、一般職員初任科	10期	278人
	昇任時教養 巡査部長任用科	1期	22人
	専科等教養 部門別任用科、専科、長期末入校者研修	40期	659人
	合 計	51期	959人

(2) 勤務成績の評定の状況

ア 知事部局等

職員の能力、実績、勤務態度等を各所属長等が評価し、職員の昇任、異動等に当たっての参考資料として活用しています。

また、職員の意欲、士気の高揚や能力向上を図るため、国の公務員制度改革の動向も踏まえながら新たな人事評価制度について検討を進めており、その一環として、平成16年度には管理職を対象として「能力評価」を試行しました。

今後、試行結果の検証を踏まえ、公正で納得性の高い評価制度となるよう、さらに検討を進めていくこととしています。

イ 教育委員会

教職員の能力、勤務成績等を各所属長が評価し、教職員の昇任、異動等に当たっての参考資料として活用しています。

また、教職員の資質能力や意欲の向上と活力ある学校づくりの実現を図るため、国の公務員制度改革の動向も踏まえながら、自己申告による目標管理と業績評価とからなる「新たな教員評価」制度について検討を進めています。

その一環として、平成17年度には公立学校の校長、教頭及び県立学校の部主事を対象に評価の試行を実施し、その実施状況も踏まえて、新たな評価制度の検討を行うこととしています。

ウ 警察本部

職員の実績、能力、勤務態度等を各所属長等が評価し、職員の昇任、異動等に当たっての参考資料として活用しています。

評定及び調整は、仕事の成果・実績、能力・適性、仕事に取り組む態度等に応じて、A、B、C1、C2、D、Eの6段階で行っています。

7 職員の福祉及び利益の保護の状況

(1) 保健の状況

地方公務員法（昭和25年法律第261号）労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）山口県職員健康管理規程（昭和50年山口県訓令第2号）等の規定に基づき、労働安全衛生体制のもと、快適な作業環境の整備、職員の安全と健康の確保など労働安全衛生管理に努めています。

（注）小中学校教職員を除く。

ア 労働安全衛生管理

平成16年度の安全衛生委員会等の設置状況は、次のとおりです。

区 分	安全衛生委員会	衛生委員会
知事部局等	10所属	18所属
教育委員会	—	51所属
警察本部	—	19所属

イ 健康管理

平成16年度の検診受診状況は、次のとおりです。

区 分		知事部局等	教育委員会	警察本部	備 考
定期健康診断 （法定）	対 象 者	4,874人	4,921人	3,455人	胸部エックス線撮影、 血液検査ほか
	受 診 者	4,800人	4,440人	3,455人	
ガン検診 （任意）	胃 ガ ン	2,426人	3,357人	2,367人	老人保健事業対象
	大腸ガン	941人	1,697人	2,477人	
	子宮ガン	270人	181人	204人	
	乳 ガ ン	255人	178人	211人	

ウ 作業環境管理

平成16年度の作業環境測定結果は、次のとおりです。

所属数	作業場数	結 果	検査内容
29	55	全て適切である	特定化学物質、有機溶剤

（注）知事部局のみ

(2) 福利厚生の状況

地方公務員法の規定に基づき、職員の元気回復等の事業を計画的に実施するとともに、地方公務員等共済組合法（昭和37年法律第152号）等の規定に基づき地方職員共済組合等が実施する医療給付、年金給付等の諸事業に対して法令等に基づき経費負担するなど、職員の福利厚生を図っています。

（注）教育委員会については、県立学校・事務局の他、小中学校・県立大学等を含む。

ア 元気回復事業

区 分	事 業 名	実施機関	概 要
知事部局等	元気回復事業等への助成 職員球技大会	共済組合 県・共済	各部局、各地域単位で行う事業へ助成 年1回開催
教育委員会	元気回復事業等への助成	県・共済	各所属、各地域単位で行う事業へ助成
警察本部	元気回復事業等への助成	共済組合	各所属単位で行う事業へ助成

イ 地方職員共済組合等に対する負担金・補助金

区 分	項 目	金 額	概 要
知事部局等	共済組合への負担金	6,937,195千円	短期、長期経理に係る法定負担金 健康保持・疾病予防事業等の奨励 健康管理事業等の奨励
	〃 への補助金	5,174千円	
	職員互助会への補助金	21,237千円	
教育委員会	共済組合への負担金	19,409,288千円	短期、長期経理に係る法定負担金 福利厚生事業の奨励 福利厚生事業等の奨励
	〃 への補助金	1,577千円	
	職員互助会への補助金	105,457千円	
警 察 本 部	共済組合への負担金	4,762,440千円	短期、長期経理に係る法定負担金 福利厚生事業の奨励
	職員互助会への補助金	23,291千円	

(3) 公務災害補償

地方公務員法、地方公務員災害補償法（昭和42年法律第121号）の規定に基づき、公務災害（公務執行に起因して発生した負傷、疾病、障害、死亡等）、通勤災害に対して地方公務員災害補償基金が給付等を行っています。

平成16年度認定件数は、次のとおりです。

	公務災害	通勤災害	計
知事部局等	34件	8件	42件
教育委員会	120件	9件	129件
警 察 本 部	86件	1件	87件

（注） 小中学校教職員を含む。

Ⅱ 山口県人事委員会の業務の状況

1 職員の競争試験及び選考の状況

(1) 職員の競争試験の状況（平成16年度）

試験 区分	試験職種等	申込者	第一次試験		第二次試験		競争倍率 (A / B)
			有効受験 者数 A	合格者	有効受験 者数	最終合 格者 B	
上 級	行 政	991	807	71	61	35	23.1
	警 察 事 務	183	147	24	21	9	16.3
	社 会 福 祉	54	44	4	3	1	44.0
	土 木	123	95	25	24	10	9.5
	建 築	29	24	5	5	2	12.0
	農 業 I	76	66	18	18	7	9.4
	農 業 II	4	4	2	2	1	4.0
	林 業	23	18	5	5	2	9.0
	獣 医 師	3	2	2	2	2	1.0
	畜 産	16	11	8	6	4	2.8
	水 産	34	24	5	5	2	12.0
	電 気	29	22	4	3	1	22.0
	化 学	36	27	9	9	4	6.8
	衛 生 薬 学	14	11	6	6	4	2.8
	衛 生 監 視	21	17	9	9	4	4.3
	計	1,636	1,319	197	179	88	15.0
中 級	小・中学校栄養士	57	49	8	7	3	16.3
	計	57	49	8	7	3	16.3
初 級	事 務	254	218	36	32	13	16.8
	警 察 事 務	104	93	20	20	12	7.8
	土 木	31	24	15	14	9	2.7
	林 業	13	13	5	5	2	6.5
	電 気	9	7	4	4	1	7.0
	小・中学校事務	91	82	18	17	9	9.1
	計	502	437	98	92	46	9.5
保健師・ 助産師、 看護師	助 産 師	9	9	8	8	4	2.3
	看 護 師	82	75	47	44	32	2.3
	計	91	84	55	52	36	2.3
警 察 官	男性(A)特別募集	251	204	67	66	24	8.5
	男性(A)一 般	736	613	197	153	72	8.5
	武道指導	2	2	2	2	2	1.0
	男 性 (B)	527	449	148	136	71	6.3
	女性(A)特別募集	60	48	8	8	3	16.0
	女 性 (A)	147	108	13	9	6	18.0
	女 性 (B)	102	82	9	7	3	27.3
	計	1,825	1,506	444	381	181	8.3
合 計		4,111	3,395	802	711	354	9.6

(2) 選考の状況(平成16年度)

ア 採用選考

給料表	職務の級	知事部局等	教育委員会	警察本部	計
行政職	11				
	10				
	9	1			1
	8	3	9		12
	7		2		2
	6	1	1		2
	5	10	1	1	12
	4	5			5
	3	10			10
	2	4		3	7
	1	7	1	3	11
公安職	10				
	9			1	1
	8			1	1
	7			9	9
	6			1	1
	5			3	3
	4				
	3			5	5
	2				
	1				
海事職	6				
	5				
	4				
	3				
	2				
	1	1		1	2
研究職	5	1			1
	4				
	3				
	2		1		1
	1	1		2	3
医療職(一)	4				
	3	7			7
	2	2			2
	1	7			7
医療職(二)	7				
	6				
	5				
	4				
	3				
	2				
	1	1			1
教育職(二)	4				
	3	1			1
	2	3			3
	1				
教育職(三)	4		1		1
	3				
	2				
	1				
計		65	16	30	111

イ 昇任選考

給料表	職務の級	知事部局等	教育委員会	警察本部	計
行政職	11	7	1		8
	10	9	3		12
	9	28	3	1	32
	8	126	27	8	161
	7	109	31	6	146
	6	126	38	16	180
	5	138	24	4	166
	4	95	17	5	117
	3				
	2				
	1				
公安職	10			5	5
	9			8	8
	8			18	18
	7			16	16
	6			72	72
	5			100	100
	4			116	116
	3				
海事職	6				
	5			1	1
	4	1			1
	3	3			3
	2				
	1				
研究職	5	4	2		6
	4	4			4
	3	1	2		3
	2	7		2	9
	1				
医療職(一)	4	1			1
	3	4			4
	2	2			2
	1				
医療職(二)	7				
	6				
	5	2	6		8
	4	1	6		7
	3	1	6		7
	2				
医療職(三)	7				
	6	1			1
	5	6			6
	4	9			9
	3	8			8
	2				
	1				
教育職(一)	4				
	3		1		1
	2		3		3
	1				
教育職(二)	4				
	3				
	2		2		2
	1				
計		693	172	378	1,243

2 職員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する報告及び勧告の状況

報告及び勧告日	報告及び勧告の別	主 な 内 容
平成16年10月7日	報告	職員の給与、民間給与の調査、公民給与の比較、国家公務員との給与比較、物価及び生計費、給与について、勤務環境の整備について、人事行政の運営について
		公民較差 △0.10% 民間特別給 4.32月分
	勧告	寒冷地手当の廃止

3 職員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する措置の要求の状況

	平成15年度末 現在未処理件数	平成16年度の 措置要求件数	平成16年度の 処理件数	平成16年度末 現在未処理件数
給 与				
旅 費				
勤 務 時 間				
休 暇		1		1
執 務 環 境		1		1
厚 生 福 利				
転 任				
任 用				
そ の 他				
計		2		2

4 職員に対する不利益な処分についての不服申立ての状況

平成16年度は新規事案、継続事案ともにありません。